



JAXA/NASA

●学術・文化部門

若田 光一さん
(JAXA宇宙飛行士)

息子のそして日本中の子供たちに、宇宙の素晴らしさに加え、夢や目標の大切さを語りかけてきた若田さん。ご本人も、5歳の時アポロ11号が月面着陸した映像を目にして宇宙に憧れ、1996年、32歳で初めて宇宙へ飛び立ち、4度のフライトとなる2013年には日本人初の国際宇宙ステーションの船長を務めました。子育ても後輩の指導も同様に、自主性を重視し、試行錯誤をしながら難関を乗り越えようと努力する過程こそ、人が最も伸びる時であり、失敗を糧に夢や目標に向かって努力してほしいと語ります。

●プロフィール 1963年埼玉県生まれ。九州大学大学院工学研究科応用力学専攻修士課程修了後、日本航空に入社。92年宇宙飛行士候補に選ばれる。96年、日本人初の搭乗運用技術者としてスペースシャトル「エンデバー」に搭乗。2000年に日本人で初めてISS(国際宇宙ステーション)の組み立て飛行に参加。13年4度目の宇宙飛行となるISS長期滞在中に日本人初のISS船長を務めた。



●経済部門

日野 晃博さん
(株式会社レベルファイブ代表取締役社長 CEO/ゲームクリエイター/プロデューサー)

日野さんの信条は、子供たちに喜んでもらうために徹底的に子供の目線で作品を作ること。子供たちがまるで自分たちの学校で起きている出来事のように感じられる身近な世界が「妖怪ウォッチ」の舞台です。現代の子供たちは、まるで大人の社会のような、シリアスな人間関係の悩みを抱え多様なストレスを感じています。そんな中のさまざまな失敗を妖怪のせいにして笑い飛ばしてしまい、作品を通じて「君たちの味方だよ!」というメッセージを送り、とことん子供たちが幸せになれる作品を作り続けたいと語ります。

●プロフィール 1968年福岡県生まれ。専門学校卒業後、ゲームメーカー2社を経て98年に独立し『レベルファイブ』を設立。2013年7月に発売して社会現象になった『妖怪ウォッチ』シリーズをはじめ、『レイトン教授』シリーズや『イナズマイレブン』シリーズ、『ダンボール戦機』シリーズなど、話題作を数多く手がけてきた。これらすべての作品でプロデューサーを務めている。



●政治部門

石橋 良治さん
(島根県邑南町長)

「中学卒業までの医療費」「第二子以降の保育料」「保育所の給食費」を無料化するなど、子育て世代への手厚い支援を行う邑南町長の石橋さん。町全体が大きな家族になることを理想に、町民が一丸となって子供たちを育てる意識を高め、学習意欲向上だけでなくふるさと邑南町への愛情を育む環境づくりに尽力されています。家庭では、うそをつかない、礼を尽くすなど、どんなときでも誠実であることを家訓としていて、3人の子供と4人の孫全員が邑南町に住み、まさに「日本一の子育て村」の実現者でもあります。

●プロフィール 1949年島根県生まれ。立命館大学産業社会学部卒業。旧石見町町会議員、島根県議会議員を経て、2004年10月1日に旧石見町と旧瑞穂町、旧羽須美村の合併により誕生した邑南町の初代町長就任。日本一の子育て村、を目指して、さまざまな支援策を実施。過去5年間の出生率を2.20へと向上させるなど実績を残してきた。現在3期目。13年から邑南町村会会長も務める。

織研新聞

広告特集



一般社団法人
日本メンズファッション協会
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前3-18-14
TEL03(5412)2330
FAX03(5412)0940
http://mfu.or.jp/

各界から
6人選出

「第34回ベスト・ファーザー イエローリボン賞」発表・授賞式

才能よ花開け、子どもたちの将来を応援する父親像



一般社団法人日本メンズファッション協会(MFU、八木原保理事長)主催の「第34回ベスト・ファーザーイエローリボン賞2015」発表・授賞式が6月3日午後5時半から、パレスホテル東京で開かれた。「ベスト・ファーザー賞」はMFUが提唱・啓蒙してきた「父の日」キャンペーンのメインイベントであり、今年で34回目の開催となる。その選考基準は「①明るく楽しい家庭作りをしている父親②父親学の実践者③厳格なしつけをしている父親④子供たちの良き理解者、良き教育者⑤母親と子供から見た素敵な父親⑥社会の福祉に貢献し父親像をアピールしている人⑦ユニークな子育てをしているなど、いろいろな意味で「素敵なお父さん」と呼べる人」を政治・経済・学術・文化・芸能・スポーツなどの分野から選び表彰している。

●スポーツ部門

大竹 秀之さん
(元全日本男子バレーボールチーム代表)

その長身から繰り出されるブロックや胸のすくようなスパイクでバレーボールファンを魅了した大竹さん。現在は日本バレーボール協会の発掘育成委員として、全国の有望な選手探しと育成に奮闘中。遠征で家を空けがちのなか、栄養士の資格を持つ奥様のもとで育った娘と息子は、2020年東京オリンピックに向けた集中強化選手に選出されました。バレーはレシーブ、トス、アタックとうまくつながらなければ点の取れない、チームワーク至上のスポーツであり、その達成感と感激を多くの子供たちに味わってほしいとのこと。



●プロフィール 1967年神奈川県生まれ。法政大学在学中に全日本代表に選出され、卒業後は男子バレーボールチームの「NECブルーロケッツ」に入部。92年バルセロナ・オリンピック出場。またワールドカップ、世界選手権にも何度も出場。2001年に現役を引退し、全日本チームのコーチとして指導に当たる。現在は公益財団法人日本バレーボール協会が発掘育成委員として活躍中。

●芸能部門

ヒロミさん
(タレント・実業家)

典型的な九州男児で、とても厳しく怖かったが、頼りがいと責任感の強かった父親のDNAを継ぎ、毒舌でストレートな物言いの中に気遣いと人への深い愛情を感じさせるヒロミさん。参加者全体の個性を引き出し、裏方の人たちにも気楽に声掛けをして気を配る仕事ぶりながら、家庭でも子供たちに「やつら」「あいづら」と仲間意識で接し、その懐に直球勝負で挑みつつ、深い愛情と親としての頼もしさを自覚するやんちゃな父親です。そして、「一日も早く自立させることが、親の、特に父親としての役目だ」と熱く語ります。



●プロフィール 1965年東京都生まれ。86年にお笑いグループ「B21スペシャル」を結成。その後ソロでも活躍し、『発掘!あるある大事典』(フジテレビ系列)などのレギュラー番組出演を経て、93年タレントの松本伊代さんと結婚。トレーニングジムの経営も手掛ける。10年ほどテレビの仕事から離れ、2014年から本格復帰。現在『美女たちの日曜日』(テレビ朝日系列)の司会として活躍中。

●芸能部門

照英さん
(俳優)

テレビで子育ての楽しさを語り、子育て相談のサイトでは育児に迷うママやパパに、的確なアドバイスをするなど、子育て世代の先輩パパの照英さん。小さな子供を持つ親は、教育に熱心になるあまり娯楽要素を否定してしまいがちだが、例えば漫画が好きな子が将来絵やグラフィックデザインで才能を開花させることもあるかもしれないのであり、無限の力があり多くの選択肢のある子供たちを応援する親でありたいと語ります。そして、「何かを始める前に諦める人間になってほしくない」とのメッセージを送り続けます。



●プロフィール 1974年埼玉県生まれ。学生時代、やり投げの選手として活躍。東海大学体育学部卒業後、モデルやタレント、俳優として映画やドラマなどで活躍。趣味の釣りを生かして旅番組やドキュメンタリー番組などにも出演。現在『ネプ&イモトの世界番付』(日本テレビ系列)、『スタイルプラス』(東海テレビ)などに出演中。著書に『親子で運動会を勝ちにいく』(岩崎書店)などがある。

変わらない安心。
進化する品質。

